リキッド発酵飼料（FE飼料）を活用した付加価値ブランド豚肉の構築

株式会社日本フードエコロジーセンター
代表取締役　髙橋巧一（獣医師）

日本フードエコロジーセンターの取り組み

食品リサイクル事業を通じて、
循環型社会の形成に貢献します。

食べものに、
もったいないを、
もういちど。
NO-FOODLOSS PROJECT

株式会社日本フードエコロジーセンター
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：www.japan-fec.co.jp

J.FEC

工場概要

日本フードエコロジーセンター

項　目	内　　容
施設の名称	日本フードエコロジーセンター （TEL042-777-6316　FAX042-777-6317）
施設の設置場所	〒252-0245 相模原市中央区田名塩田１－１７－１３（工場設置場所） 相模原市中央区田名塩田１－１０２１５－６（駐車場）
土地利用の区分	市街化区域、工業専用地域
面積	【工場】土地面積：　１５２７m²　建物面積：　９０９．５ m² 【駐車場】土地面積：　１３２５m²
取扱廃棄物名	動植物性残渣、廃酸、廃アルカリ、汚泥（食品に限る） 一般廃棄物（生ごみ）
処理方式、能力	飼料化（破砕・発酵処理）**３９ｔ/日**：一般廃棄物処分１３ｔ/日 ・産業廃棄物処分２６ｔ/日
施設稼動時間	搬出入時間：午前8時～午後5時　　３６５日稼動

会社概要

J.FEC

社　名	株式会社日本フードエコロジーセンター (JAPAN FOOD ECOLOGY CENTER,INC.)
本　社	神奈川県相模原市中央区田名塩田一丁目17番13号 TEL：042-777-6316　FAX：042-777-6317
代表者	代表取締役　髙橋巧一
資本金	１，０００万円
事業内容	食品リサイクル事業（廃棄物処分業、飼料製造業、その他）
従業員	２８名（パートタイマー含む）

一般廃棄物処分業許可証（相模原市）	２０１３．１０．１ （２０１５．９．３０）	相許可第Ｂ０２１３号　一般廃棄物処分業 相模原市指令（廃指一）第６０号
産業廃棄物処分業許可証（相模原市）	２０１３．１０．１ （２０１８．９．３０）	許可番号：第０９８２０１７２９１８号
再生利用事業登録証明書（環境省・農水省）	２０１３．１０．１ （２０１８．９．３０）	登録番号：１４－１１
再生利用事業計画認定（農水省・経済産業省・環境省）	２０１４．３．２８ （２０１７．３．３１）	*20総合第1034号・産第5号・* *環廃企発第080904001号* （食品リサイクルループ）：廃棄物処理法の特例

食品リサイクル作業の流れ１

J.FEC

提携運搬業者が食品工場等から回収

専用保冷車でフードエコロジーセンターへ搬入

バーコードにより事業場別にデータ（量）をインプット

専用回収容器にて計量

① 食品循環資源の搬入

② 搬入物の計量

③ 原料投入　（余剰食品）

④ 選別作業　金属探知機、マグネット等

食品リサイクル作業の流れ２

J.FEC

⑤　破　砕

破砕終了後（1次タンク内）

熱交換器　⑥　殺菌処理

⑦　発酵処理

⑧飼料運搬用タンクローリー

給餌風景

リキッド発酵飼料の特徴

1)リキッド状（粥状）の飼料で安価

リキッド発酵飼料は、牛乳、ヨーグルト等の良質な食品循環資源の水分をそのまま利用することにより
エネルギーコストを下げ、一般配合飼料の半分程度の価格で提供が可能となりました。

2)糞尿の臭気発生を抑制

リキッド状飼料のため、消化効率が良く、余分な窒素分が排出されないため、糞尿のアンモニア臭が軽減
されます。

3)疾病率を低下させる

乳酸菌の働きにより腸管内に善玉菌を増加させるため、免疫力の向上、整腸作用等の機能があります。
さらに粉塵の発生がなくなるため、肺炎等の疾病率も低下し、人の労働環境も改善されます。

4)安全で健康的な豚肉を消費者に提供

リキッド発酵飼料を給与した豚は疾病率が低くなるため、抗生物質の投与を軽減できます。
そのため、安全で健康的な豚肉を消費者に提供できるのです。

食べものに、
もったいないを、
もういちど。
NO-FOODLOSS PROJECT

ループリサイクル (循環型社会) の形成

J.FEC

小田急グループ「優とん」の宣伝・広告

小田急グループ「優とん」のギフト商品例

株式会社エコスのリサイクルループ

株式会社エコスは東京都、神奈川県内の各店舗から排出される食品循環資源を(株)日本フードエコロジーセンターでリキッド発酵飼料し、その豚を用いて、ブランド豚「旨香豚」を開発、グループ81店舗で販売を行っている。

このような取り組みが評価され、平成21年度食品リサイクル推進環境大臣賞奨励賞を受賞した。